

2018 年度精神分析セミナー

—第 8 期 2 年次開催のご案内—

主催：精神分析インスティテュート福岡支部

精神分析セミナー2018 年度（第 8 期 2 年次）へのご挨拶

精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長 古賀 靖彦

昨年度 1 年次でみなさんは「精神分析とは何か」という基本的なことを学ばれました。すなわち、S.フロイトの精神分析の創始、治療法としての基本と概念、フロイトの精神病理と症例などでした。今年度 2 年次ではフロイトの強調に始まる自我心理学、ポスト・フロイト精神分析といわれるクライン派、対象関係論、自己心理学などの現代精神分析の理論や臨床、さらには現代の問題や子どもに対する精神分析的アプローチが準備されています。これらの講義を通してみなさんの精神分析的な理解が一層深まることを期待します。

なお、本セミナーは、国際精神分析協会（IPA）の基準に則った精神分析家、あるいは、日本精神分析協会（JPS）が独自に認定する精神分析的な精神療法家になる訓練コースに志願する場合に受講すべき「基礎セミナー」です。また、日本精神分析学会認定研修グループ、そして、日本臨床心理士資格認定協会承認研修会でもあります。

<2018 年度の開講予定>

*2018 年度は 6 回開講する予定です。各回とも土曜日（15:00~20:00）と日曜日（9:30~12:30）を使つての開催となります

第 1 回『自我心理学』

コーディネーター：古賀靖彦

「エス（イド）あるところに自我あらしめよ」はフロイト精神分析の到達点であった。人格構造論を中心としたメタ心理学に基づく自我心理学は、アンナ・フロイト、ハルトマンによって継承され、その後、米国を中心にさらに発展した。今回はこの自我心理学における基本的理論について学習するとともに、対象関係論、自己心理学などのポスト・フロイト精神分析が発達するなかで、現代の自我心理学はどのような展開をしているかを明らかにする。また、自我心理学の所産としてのパーソナリティ発達-ライフサイクル論についても学ぶ。

平成 30 年 5 月 26 日（土）

①自我心理学：米国での展開
I) 自我機能 II) 抵抗 III) 転移

岡田暁宜（桜クリニック）

参考図書：ガートルード・ブランク、ルビン・ブランク著、馬場謙一監訳『自我心理学の理論と臨床—構造、表象、対象関係』（金剛出版、2017 年）、妙木浩之編著『自我心理学の新展開—フロイト以後、米国の精神分析』（ぎょうせい、2010 年 3 月）

②「情緒発達・ライフサイクル論」
I) 分離-個体化 II) アイデンティティ III) ライフサイクル

岡田暁宜（桜クリニック）

参考図書：P. タイソン、R.L. タイソン著、馬場禮子監訳『精神分析的発達論の統合 1』（岩崎学術出版、2005 年 12 月）、E.H. エリクソン著、小此木啓吾訳『自我同一性—アイデンティティとライフ・サイクル』（人間科学叢書）、誠信書房、1973 年 3 月）

平成 30 年 5 月 27 日（日）

③「自我心理学の基礎/アンナ・フロイト」
第二局所論を受けて、アンナ・フロイトがフロイトを拡張させた点について I) 自我と防衛 II) 発達ライン III) 発達心理学と児童精神医学への影響 と論じる。

妙木浩之（東京国際大学）

参考図書：フロイト「精神分析概説」（どのバージョンでも良い）、アンナ・フロイト『自我と防衛』誠信書房、妙木浩之『寄る辺なき自我の時代』現代書館

④総括

第2回『クライン派』

コーディネーター：松木邦裕

メラニー・クラインが英国で発展させた独創的な精神分析は、クライン派精神分析として今日世界中で支持されています。そのクライン派精神分析の基礎から今日の発展までを紹介します。

平成30年7月14日（土）

①メラニー・クラインとその後継者の理論展開
I) 無意識的幻想 II) ポジション論（妄想分裂ポジションと抑うつポジション） III) 投影同一化／投影性同一視 IV) 心的退避とエナクトメント

皆川英明（広島市精神保健福祉センター）

参考図書：1) Klein, M. (1952): The origin of transference. (転移の起源. メラニー・クライン著作集4、誠信書房) 2) Segal, H. (1957): Notes on symbol formation. (象徴形成について. クライン派の臨床ないしメラニークライン・トゥデイ2、いずれも岩崎学術出版) 3) Steiner, J. (2000): Containment, enactment and communication. (コンテイメント、エナクトメント、コミュニケーション. 心的変化を求めてーベティ・ジョセフ精神分析ワークショップの軌跡ー. 創元社)

②ローゼンフェルドの分析臨床
I) 人生史 II) 精神病の精神分析 III) 投影同一化 IV) ナルシシズム V) 晩年の展開

松木邦裕（精神分析オフィス）

参考図書：1) ローゼンフェルド(1987)『治療の行き詰まりと解釈』（誠信書房、2001）2) Steiner, J. Ed (2008): Rosenfeld in retrospect. Routledge, London

平成30年7月15日（日）

③ビオンの理論と臨床
I) グループ体験 II) 精神病の臨床と理論 III) 後期ビオン

古賀靖彦（油山病院）

参考図書：1) ビオン(1961)：池田数好『集団精神療法の基礎』（岩崎学術出版社）2) ビオン(1967)：中川慎一郎訳・松木邦裕監訳『再考：精神病の精神分析理論』（金剛出版）3) ビオン(1967)：中川慎一郎訳「記憶と欲望についての覚書」松木邦裕監訳『メラニー・クライン トゥデイ③』（岩崎学術出版社）

④総括

第3回『対象関係論』

コーディネーター：鈴木智美

フロイトの一元心理学から二元心理学への変革は、精神分析をより臨床に即したものにしました。英国で発展した対象関係論の仕事を手紙にその源流を求めて紹介し、どのようにして変遷を遂げたのか、その臨床可能性を追っていきます。

平成30年9月29日（土）

①対象関係論、その考え方／独立学派
I) 対象関係論とは II) M・クラインーA・フロイトの大論争 III) 英国独立学派

鈴木智美（精神分析キャビネ）

参考図書：小此木啓吾（編）『精神分析・フロイト以後』（現代のエスプリ 148、至文堂）、松木邦裕編・監訳『対象関係論の基礎』（新曜社）

②フェレンツィから現代の対象関係論のあり方

奥寺崇（クリニックおくでら）

参考図書：S. Ferenczi『精神分析技法の柔軟性』『大人と子どもの間の言葉の混乱』・M. Balint『外傷と対象関係』（いずれも『精神分析への最後の貢献』岩崎学術出版社より）、M. Balint『治療論からみた退行』（金剛出版）、C. Bollas『精神分析という経験』（岩崎学術出版社）

平成 30 年 9 月 30 日 (日)	
③フェアバーン/ ウィニコット I) 対象関係論への転換 II) 発達論と臨床技法 III) 治療記録より	北山修 (北山精神分析室)
参考図書: 北山修『精神分理論と臨床』(誠信書房)、R.フェアバーン『人格の精神分析学』(講談社学術文庫)、北山修『錯覚と脱錯覚』(岩崎学術出版社)、D. W. ウィニコット『抱えることと解釈』(岩崎学術出版社)、W.R.D.フェアバーン『対象関係論の源流—フェアバーン主要論文集』相田信男(監修)栗原和彦(翻訳)(遠見書房、2017)	
④総括	

第 4 回『自己心理学、間主観、関係論』	
コーディネーター: 鈴木智美	
フロイトの一元心理学から二元心理学へという変革の流れにおいて、米国ではサリバンによる対人関係論に始まる関係論、コフートによる自己心理学が生まれ、発展してきました。米国での精神分析を概観し、その理論や技法、臨床実践について紹介します。	
平成 30 年 12 月 22 日 (土)	
①コフートの自己心理学	吾妻壮 (神戸女学院大学人間科学部)
参考図書: 丸田俊彦著: コフート理論とその周辺—自己心理学をめぐって (岩崎学術出版社)	
②間主観性・関係論	吾妻壮 (神戸女学院大学人間科学部)
参考図書: 丸田俊彦著: 間主観的感性—現代精神分析の最先端 (岩崎学術出版社)、吾妻壮著: 精神分析における関係性理論—その源流と展開 (誠信書房)	
平成 30 年 12 月 23 日 (日)	
③米国における関係精神分析の流れ	岡野憲一郎 (京都大学)
参考図書: 吾妻壮 (2016): 精神分析における関係性理論—その源流と展開 (誠信書房)、岡野他著 (2011): 関係精神分析入門—治療体験のリアリティを求めて (岩崎学術出版社)	
④総括	

第 5 回『現代の問題への分析的理解』	
コーディネーター: 松木邦裕	
時代の変遷は人びとを刺激し、精神的な病の病態像を革新させます。現代に浮かび上がってきている幾つかの病態を精神分析の視座から照射します。	
平成 31 年 1 月 19 日 (土)	
①トラウマ I) 精神分析におけるトラウマ論 II) トラウマと解離の病理	岡野憲一郎 (京都大学)
参考図書: 岡野憲一郎: (正、続) 解離性障害、新外傷性精神障害 (岩崎学術出版)	
②自閉症・発達障害 I) 臨床病態 II) DSM-5 での自閉症スペクトラム、発達障害 III) 精神分析における精神発達理論と自閉症 IV) 精神分析からみる「発達障害」 V) 臨床現場での理解と対応	松木邦裕 (精神分析オフィス)
参考図書: メルツァー, D. (1975): 自閉症世界の探求、賀来博光・西見奈子他訳、金剛出版、2014	
平成 31 年 1 月 20 日 (日)	
③現代型うつ病について I) DSM-5 のうつ病 II) フロイトの考え III) うつ病の力動モデル IV) ディスシミア親和型うつ病 V) 日本の現代型うつ病のそ	古井博明 (ひろメンタルクリニック)

他のモデル VI) 現代型うつ病の分析症例	
参考図書：1) フロイト, S.(1917):「喪とメランコリー」フロイト全集、岩波書店 2) 野村総一郎：現代型のうつ病をどう捉えるか、In:野村総一郎編、多様化したうつ病どう診るか. pp1-25、医学書院、2011	
④総括	

第6回『子どもの精神分析的心理療法』		コーディネーター：古賀靖彦
<p>こころを病む子どもたちに向けて、精神分析からの理解とアプローチは開発された。その精神分析的理解は大人の重篤な病理への接近にも大いに貢献した。今回は今日の実践を、精神分析的心理療法を中心に、解説する。</p>		
平成31年3月9日（土）		
①「子どもの精神分析的心理療法概論」 I) 子どもの心理療法の歴史 II) 子どもの精神分析的心理療法で大切な要素 III) 子どもの精神分析的心理療法の設定 IV) 子どもの精神分析的心理療法の過程	生地新（北里大学大学院医療系研究科）	
<p>参考図書：モートン・チェシック（斉藤久美子監訳）『子どもの心理療法—サイコダイナミクスを学ぶ』（創元社、大阪、1999）、北山修監修・高野晶編著『週一回サイコセラピー序説：精神分析からの贈り物』（創元社、大阪、2017）、生地新『児童福祉施設の心理ケア—行動精神医学からみた子どもの心』（岩崎学術出版社、東京、2017）</p>		
②子どもの精神分析的プレイセラピー I) 遊ぶことについてのウィニコットの見解から II) 遊ぶことを通して子どもが元気になる仕組み	山崎篤（中村学園大学短期大学部）	
<p>参考図書：ウィニコット『改訳 遊ぶことと現実』（岩崎学術出版社）、ウィニコット「精神病と子どもの世話」『児童分析から精神分析へ』（岩崎学術出版社 pp.92-104）、エイブラム「遊ぶこと」『ウィニコット用語辞典』（誠信書房 pp.5-17）</p>		
平成31年3月10日（日）		
③クライン派の子どもの精神分析的心理療法：タビストック・モデル I) タビストック・モデルの展開：タビストック・クリニックと英国児童青年心理療法協会（ACP） II) 子どもの精神分析的心理療法の基礎—クライン派の視点 III) 子どもの精神分析的心理療法の実際 IV) 日本の児童臨床との関連で	平井正三（御池心理療法センター）	
<p>参考図書：平井正三『子どもの精神分析的心理療法の経験』（金剛出版）、鶴飼奈津子『子どもの精神分析的心理療法の基本』（誠信書房）</p>		
④総括		
⑤講義終了後 講師と自由に語る	古賀靖彦	